

授業科目名	アカデミック・コミュニケーション 1-伝えるための基礎-		
科目番号	1G10011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	野村 港二		
授業概要	大学での学問に高い専門性が求められるが、一方で異分野との積極的な交流がなければ新たな道を開拓することはできない。そして、そのためには研究の本質を分かり易く伝える能力が求められる。本講義では、筑波大学の伝統である異分野融合の基本となっている学問の世界でのコミュニケーションの基本を考える。		
備考	(資源開設) 平成 23 年度までの「テクニカルライティング」、および平成 26 年度以前に総合科目 II の 1C10081 アカデミック・コミュニケーション 1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション 2 の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	大学は、レポートや論文などの書き物、セミナーや学会での発表などのプレゼンテーション、研究室内外での様々な議論や討論などを通して、学術的な内容でのコミュニケーションを行う場と考える事もできます。そこで、科学や事実を伝えるために必要な考え方、考えたり伝えたりすることとはどのような事なのかを探ります。また、気持ちよく伝えるために役立つスキルについても解説します。		
到達目標	1 学問の内容を伝えるための基本を理解する。 2 コミュニケーションスキルを習得する 3 分かり易く伝えるための方法を習得する		
キーワード	表現, コミュニケーションスキル		
各回授業計画	<p>第 1 回【4 月 18 日 巖岩奈々 心理カウンセラー】 [伝えたいこと、伝えること、そして伝わること] コミュニケーションには送り手と受け手がありますが、相手に思い通りに伝える事を阻む、いくつかの障壁があります。伝えたいことを明確化、言語化するまでを中心に講義します。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 25 日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [事実を伝える、科学を伝える] 伝えたいのはデータだけですか、データに基づくインフォメーションですか。データとインフォメーションについて考えます。</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 9 日 掛谷英紀 システム情報系】 [学問とは何か、科学とは何か] 科学と似非科学の境界を定義づけることで、学問に携わる者が守るべきルールを論じます。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 16 日 掛谷英紀 システム情報系】 [様々な知識の融合] 現実社会における複合的な問題に対して、種々の専門分野に細分化された学問の知見をどう生かしていくかを考えます。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 23 日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [発想法] 今学期の講義では、伝えるための方法や、そもそも伝えるとはどのような事なのかを考えます。第一回は、考えを言葉にしてまとめることに焦点をあてます。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 30 日 阿部淳一 ピーター 生命環境系】 [学問の源流 (語源から考える)] 系や技術系の専門用語には、ラテン語やギリシア語を語源とするものが多い。ヨーロッパ人とのコミュニケーションでは語源を知っていることが常識とされている。</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 6 日 宮崎明世 体育系】 [動きを伝える、教える] 動きを人に伝えるのは難しいもの。体育の授業では「運動を人に伝える」ことが大切な要素になる。教科教育の視点から「伝える」を考える。</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 13 日 森山裕充 東京農工大学】 [聞き手を納得させるには] プレゼンテーションの目的は、聞き手を納得させることです。ケーススタディにより様々な場面や状況を想定したプレゼン方法について考えます。</p>		

	<p>第 9 回【6 月 20 日 野村港二 教育イニシアティブ機構】ーション (学問におけるコミュニケー [学問におけるコミュニケーション] 様々な場面でのコミュニケーションが、大学での研究活動に欠かせないことを確認します。</p> <hr/> <p>第 10 回【6 月 27 日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [対面でのコミュニケーションのスキル] 聴き方や伝え方には人それぞれの癖があります。効果的に聴き、伝えるためのスキルを紹介します。</p>
履修条件	アカデミックコミュニケーション 2 を履修する事が望ましい
成績評価方法	A 期末試験 (70%) B 授業中の質問など積極的な発言 (30%) 出席率 70% 以上であること
授業外における学習方法	教室で学んだ事を実践すること
教材・参考文献	1. 1. 1. 野村港二編 研究者・学生のためのテクニカルライティング みみずく舎・医学評論社 2003
オフィスアワー・連絡先	月曜 3 限 生物農林学系棟 B722 nomura.koji.gb at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	なし

授業科目名	グローバルリーダー養成講座		
科目番号	1G24014	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 火 5
担当教員	竹村 富士徳		
授業概要	<p>自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。・文化や慣習の違いの仕組み、価値観や信念形成の仕組みについて理解する。また、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。</p>		
備考	(体育開設)【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義及び演習		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	<p>自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。</p> <p>グローバルスキルについても、文化や慣習の違い、価値観や信念形成の仕組みについて理解し、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。</p> <p>考えるための素材として、全世界の企業でリーダーシップ研修等で多く活用されている「7つの習慣」を活用する。</p>		
到達目標	<p>授業を通して、グローバルリーダーとしてふさわしい、以下のようなマインドセットが大切であることを理解する。</p> <p>まず、自分の価値観をしっかりと整理して自分軸を持ち、人生の目的、自分の目標やその目標に対する計画の実行を行える状態になること。(それができなければ、世界に出て自分が何者か、何を目指しているか軸がぶれ、グローバルに戦うことができない。)</p> <p>そのうえで、相手にとっても自分にとっても望むべき結果が何であるかを理解し、相手について十分理解する。自分の強み、相手の強みを生かし、相乗効果を発揮できるようになる。(例えば、自分が日本人としての強みを生かし、現地国ならではの特質を生かした商品づくりを行う等。)</p>		
キーワード	主体的, 協働的, リーダーシップ, 人格主義, グローバルマインド		
各回授業計画	<p>第1回【4月19日】 [7つの習慣 基礎原則 人によって異なるものの見方] ・自分が考えるグローバル人材について話し合う。 ・グローバルに活躍する上で必要な原則について学ぶ。(インサイドアウト、SDG サイクル、パラダイム) ・グローバルに活躍する上で、それぞれものの見方や考え方が異なり、ものの見方が変わると行動が変わり、結果が変わることを学ぶ。(パラダイム転換、自己制限パラダイム、効果性の原則)</p> <hr/> <p>第2回【4月26日】 同上</p> <hr/> <p>第3回【5月2日 振替授業日】 [第1の習慣 主体性を発揮する] ・グローバル社会で重要なことは自分の軸を持ち、自分自身の主体性を発揮することを学び、実感する。(刺激と反応、自覚・想像力・良心・自由意思、自己制限パラダイム) ・行動する前に結果を思い描くことの大切さを、演習を通して学ぶ。(知的創造と物的創造、目標を設定するメリット)</p> <hr/> <p>第4回【5月10日】 [第2の習慣 目的を持って始める。人生のミッションを作成する] ・グローバルという視点を持ちながら、残りの大学生活の送り方および大学卒業後の自分の理想について、自分の目標を設定する。(価値観の整理、ミッションステートメントの草案) ・留学希望者は、留学によって達成した目標を設定する。</p> <hr/> <p>第5回【5月17日】 [第3の習慣 大事なことを優先する・時間管理] ・前回の授業で自分の立てた目標に対して、効果的な計画を立て、時間の使い方を意識して行動することを学ぶ。(コンパスと時計、時間管理のマトリックス、大きな石・小さな石、週間計画、ミッションと役割) ・留学希望者は、留学時の目標に対して、効果的な計画、時間の使い方を具体的に考える。</p>		

第6回【5月24日】  
 [7つの習慣 基礎原則 信頼残高]  
 ・グローバル社会で通用する人間関係における信頼の築き方、その基準について学ぶ。(自己の信頼性と信頼、信頼残高)

第7回【5月31日】  
 [第4の習慣 Win-Win を考える]  
 ・人間関係を築く上での基本的な考え方を理解し、勇気を思いやりのバランスを保つことの大切さを学ぶ。(Win-Win の考え方、勇気と思いやりのバランス)  
 ・XYゲームを通して、Win-Win の考え方を学ぶ。

第8回【6月7日】  
 [第5の習慣 相手を理解する]  
 ・真に相手を理解するには、傾聴のレベルを理解し、時に感情移入して傾聴することが必要であることを学ぶ。  
 ・外国人とのコミュニケーションでよくある事例、および留学時によくある事例のロールプレイを通して、その難しさを実感する。(傾聴のレベル、感情移入の傾聴、自叙伝的な反応)

第9回【6月14日】  
 [第6の習慣 互いの強みを活かして相乗効果を生む]  
 ・グローバル社会で重要な、多様性の中に違いを見出し、互いを尊重し、強みを生かし合いながら相乗効果を生むことを学ぶ。外国人と働く際の事例、および留学時の事例を演習として取り組む。(相乗効果、創造的な協力、相乗効果の障壁、第3の案)

第10回【6月21日】  
 [第7の習慣 刃を研ぐ まとめ:グローバル社会を見据えて]  
 ・自己を常に高めるための、自己管理の方法とその大切さを理解し、具体的な目標を設定する。(4つの側面)  
 ・グローバル社会を見据えて、どのように意識を持つか、行動するかについて話し合い、7つの習慣をその武器としてどのように実践していくか考える。

履修条件	グローバルに活躍したい、貢献したいという意思がある。
成績評価方法	出席状況、課題提出状況、レポートの提出結果と内容によって評価する。
授業外における学習方法	授業内で学んだことをできる限り1週間以内に自分自身で実践する。その際、実践した内容を記録し、必要があれば、書籍を振り返る。
教材・参考文献	・テキストは都度ハンドアウトを配布 ・書籍「完訳7つの習慣」(もしくは書籍「7つの習慣ティーンズ」)
オフィスアワー・連絡先	質問等は随時メールにて受付
履修者へのメッセージ	グループワーク、ペアワークを多く取り入れ、学生参加型の授業が中心です。ますます変化が激しくなる社会で、国内はもとより、グローバルで活躍するための「根っこ」になる考え方を学びます。スキルやテクニックも重要ですが、それを支える「根っこ」の部分を強くしたいと思う学生さんに最適な講座です。

授業科目名	キャリアデザイン IV~実践ビジネス基礎		
科目番号	1G26021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 水 3
担当教員	吉武 博通		
授業概要	日本の就業者の約 9 割は雇用者であり、その多くが企業で働いているという現実を踏まえ、社会における企業の役割、企業経営の仕組み、企業を理解するための経営学の基礎など基本的な事項を講義した後に、グローバル化における企業経営の課題、組織で働く意味とリーダーシップなどについて共に考え、自らキャリアを能動的にデザインし、行動するために必要な考え方や姿勢を身につけることを目的とする。		
備考	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門企画) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	日本の就業者の約 9 割は雇用者であり、その多くが企業で働いているという現実を踏まえ、社会における企業の役割、企業経営の仕組み、企業活動を理解するための経営学の基礎、グローバル化における企業経営の課題など基本的な事柄を理解した上で、組織で働く意味、求められる人材、リーダーシップなどについて考え、自らのキャリアをデザインし、能動的に行動するために必要な考え方や姿勢を身につける。		
到達目標	1) 社会における企業の役割、企業経営の仕組み、企業活動を理解するための経営学の基礎について、基本的な知識を習得し、説明できること 2) グローバル化における企業経営の課題について基本的な事柄が理解でき、新聞記事など関心をもって読む習慣を身につけること 3) 組織で働く意味、求められる人材、リーダーシップなどについて、自分の考え方を自分の言葉で表現できること		
キーワード	社会・経済・企業、経営学、グローバル化、組織、働くこと、リーダーシップ、キャリア		
各回授業計画	第 1 回【4 月 13 日】 社会と経済、社会における企業の役割について考える <hr/> 第 2 回【4 月 20 日】 株式会社とは何か、その本質と企業経営の仕組みを理解する <hr/> 第 3 回【4 月 27 日】 公開された会計情報 (決算書) から企業経営を読み解く <hr/> 第 4 回【5 月 11 日】 公開された会計情報 (決算書) から企業経営を読み解く <hr/> 第 5 回【5 月 18 日】 経営学の基礎を学ぶ (戦略論を中心に) <hr/> 第 6 回【5 月 25 日】 経営学の基礎を学ぶ (組織論を中心に) <hr/> 第 7 回【6 月 1 日】 事例研究から企業経営の実際を学ぶ <hr/> 第 8 回【6 月 8 日】 リーダーシップとは何か、その本質を理解し、リーダーシップ開発のあり方を考える <hr/> 第 9 回【6 月 15 日】 組織とは何かを考え、働くことの意味を考える <hr/> 第 10 回【6 月 22 日】 キャリアとは何か、キャリアをデザインすることの意味について考える		
履修条件	3・4 年次学生であれば、特に履修条件なし		
成績評価方法	出席 40 点 + レポート 60 点の合計 100 点満点とし、基準に従って評価を決定 出席は 1 回 4 点 × 出席日数 レポートは課題提示の際に、評価基準をあらかじめ明示		
授業外における学習方法	配布資料を次回授業までにしっかり読むこと 授業期間中、新聞を読む習慣を身につけること		
教材・参考文献	1. なし		
オフィスアワー・連絡先	研究室が東京キャンパス文京校舎のためオフィスアワーは設けませんが yoshitake.hiro.fw at u.tsukuba.ac.jp		

履修者へのメッセージ	なし
------------	----

授業科目名	キャリアデザイン III~仕事と社会		
科目番号	1G26011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 水 6
担当教員	五十嵐 浩也		
授業概要	様々な分野・領域で、活躍されている社会人を外部講師として招き、講師自身の仕事と社会とのつながりについて、実体験を交えた講義を行う。グループ討議などの手法を通じて、学生が自身のキャリアデザインについて考え、自分の将来の生き方の選択肢を広げるきっかけを提供することを目的とする。1「仕事」と「社会」のあり方について、幅広い視野を持ち、社会における多様な役割を知ること2自分のキャリアデザインについて考えるために必要な「情報収集力」と「情報分析力」を発展させること		
備考	(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター キャリアサポート部門企画) CDP 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	(授業概要に記載)		
到達目標	1「仕事」と「社会」のあり方について、幅広い視野を持ち、社会における多様な役割を知ること 2 大学卒業後の進路選択、自分のキャリアデザインについて考えるために必要な「情報収集力」と「情報分析力」を発展させること		
キーワード	CDP(Career,development,Program), キャリア形成支援, キャリア・ポートフォリオ (CARIO)		
各回授業計画	<p>講義を通じて、自分がキャリアデザインをする上で必要な意思決定をするときのイメージ作りや、社会のなかで自分がどのような役割を担っていくかということを考えるきっかけとする。お招きする 8 人の外部講師の詳細は、第 1 週のオリエンテーションの場で発表する。これは、この講義が特定の業界や職種について知るための情報提供の場ではなく、全ての講義内容を通じて、自分のキャリアについて考えるためのものであるため、敢えてこのような形式をとっている。</p> <p>第 1 回【4 月 13 日 (水) キャリアサポート部門】 [オリエンテーション] 仕事と社会の接点を考えることの目的・意義、全体の講義の進め方などを確認する。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 20 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 1] 社会人 (外部講師) による講義。ご自身の職務と社会との接点や、新卒時のキャリア選択を含むこれまで経験してきたキャリアの節目や転機について実体験を交えながら講義を行う (以下 9 回目まで同様)。</p> <hr/> <p>第 3 回【4 月 27 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 2] 同上</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 11 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 3] 同上</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 18 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 4] 同上</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 25 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 5] 同上</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 1 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 6] 同上</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 8 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 7] 同上</p>		

	<p>第 9 回【6 月 15 日 (水) キャリアサポート部門】 [仕事と社会の接点 8] 同上</p> <hr/> <p>第 10 回【6 月 22 日 (水) キャリアサポート部門】 [まとめ] これまでの講義を振り返り、自分自身の仕事と社会との接点の持ち方について考える。グループワーク、クラス討議を通し、自分自身が共感した生き方、仕事観等についての言語化と共有を行う。</p> <hr/> <p>第 11 回 (期末レポート提出)</p>
履修条件	なし
成績評価方法	出席 60%、毎回のディスカッションへの参加状況と振返りシートの内容 20%、期末レポート 20%。 ただし、単位取得のためには最低 6 回以上の出席と期末レポートの提出を要する。
授業外における学習方法	事前学習として次回までの宿題を課す。
教材・参考文献	つくばキャリアポートフォリオ (CARIO) と CARIO ワークシート各種。その他必要な教材は授業時に配布する。
オフィスアワー・連絡先	メール (五十嵐浩也 igarashi.hiroya.fw@u.tsukuba.ac.jp) またはキャリアサポート部門 (学生センター 2F:就職課窓口と共通) へ入室して予約の上随時。
履修者へのメッセージ	社会人の多様な生き様に触れ、「では、自分はどのような社会人になりたいか」を考えるチャンスです。 グループワークや直接質問できる時間を積極的に活用し、自らのキャリア形成についての考えを深める機会とすることを期待します。



授業科目名	アカデミック・コミュニケーション 2-伝えるための基礎-		
科目番号	1G10021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 2
担当教員	野村 港二		
授業概要	大学での学問に高い専門性が求められるが、一方で異分野との積極的な交流がなければ新たな道を開拓することはできない。そして、そのためには研究の本質を分かり易く伝える能力が求められる。本講義では、筑波大学の伝統である異分野融合の基本となっている学問の世界でのコミュニケーションの基本を考える。		
備考	(資源開設) 平成 23 年度までの「テクニカルライティング」、および平成 26 年度以前に総合科目 II の 1C10081 アカデミック・コミュニケーション 1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション 2 の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	筑波大学は建学の理念において「筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流連係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行いあらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学」であることを宣言している。2 学期には、本学の理想を実現してきた事例を紹介しながら、学術的協働のためテリトリーを越えたコミュニケーションについて考える。		
到達目標	1 専門的な内容を伝えるコミュニケーション方法を具体的に知る 2 専門家同士が、その専門を超えて協働することの重要性を知る 3 さまざまな場面での伝え方の基本を知る		
キーワード	異分野融合, プレゼンテーション, ビジュアリゼーション		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 3 日 武政徹 体育系】 [研究は餅は餅屋の助け合い] 目的達成のために新たな実験器具を作り出す過程で、専門家(研究者とは限らない) 同士がその専門性を超えて協働することの重要性を、実例を通して紹介する。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 17 日 三輪佳宏 医学医療系】 [ギャップを越えるコミュニケーション] 聞き手の「理解」と「納得」の違いについて検討し、「納得を生むコミュニケーション」の手法について考察する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 24 日 田中佐代子 芸術系】 [サイエンスビジュアリゼーション 1] 研究発表に役立つビジュアルデザインの基本を学ぶ</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 31 日 小林麻己人 医学医療系】 [サイエンスビジュアリゼーション 2] 実例紹介を通して、なるほどと思えるスライド作りのポイントを考える</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 8 日 (振替授業日) 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [文字と絵] 私たちが伝えるために使う言葉、文字、絵にはどのような特性があるのでしょうか。また、伝えるための道具は、これらだけなのでしょうか。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 14 日 池田潤 人文社会系】 [伝わる言葉とは] 音声言語と文字言語の違いを手がかりとして、テリトリーを超えて伝わる言葉とは何かについてともに考えます。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 21 日 福田知子 国立科学博物館】 [インプット・アウトプットを考える] 日常的なコミュニケーションの基礎であるインプット・アウトプットを様々な例を通して見直してみる。</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 5 日 福田知子 国立科学博物館】 [「分類」すること] 情報整理・体系化にとって、「分類」することは重要である。</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 12 日 杉野一行 つくば国際大学】 [伝わる事の生理学] 様々な情報が受容され認知される脳の仕組みについて。</p>		

	<p>第 10 回【12 月 19 日 杉野一行 つくば国際大学】  [分ることの生理学]  伝えられた情報を理解し、それが「腑に落ちる」脳の仕組みについて</p> <p>第 11 回【12 月 26 日】  期末試験</p>
履修条件	アカデミックコミュニケーション 1 を履修する事が望ましい
成績評価方法	A 期末試験 (70%) B 授業中の質問など積極的な発言 (30%) 出席率 70% 以上であること
授業外における学習方法	教室で学んだ事を実践すること
教材・参考文献	1. 1. 野村港二編 研究者・学生のためのテクニカルライティング みみずく舎・医学評論社 2003
オフィスアワー・連絡先	月曜 3 限 生物農林学系棟 B722 nomura.koji.gb at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	なし